



Monthly Square in Chikumazawa
葉月 Spring Concert
 レーヴ・アンフィニ～無限の夢～

日時：3月15日(金)
 開場：18:30 開演：19:00
 場所：竹間沢公民館ホール
 出演：葉月(歌・ピアノ) 蓮見昭夫(ギター)

参加券：前売り500円(中学生以上)、当日売り600円
 入場には参加券が必要です。枚数に限りがあるため、町内の各公民館でお求めください。
 問い合わせ 竹間沢公民館 ☎ 259-8311



記念すべき vol.50 は「気軽にクラシック梅津美葉ヴァイオリンリサイタル」出演：梅津美葉



↑会場：竹間沢公民館の地図。公民館の他、出張所、図書館分館、竹間沢児童館がある。



100回記念公演「和楽器の饗宴」出演：和三BOM(左から小濱明人・響道宴・山本大)

竹間沢マンスリースクウェア
**身近な場所で
 芸術文化と出会う**

教育だより
 問い合わせ
 竹間沢公民館 ☎ 259-8311

会場の一体感が魅力

竹間沢マンスリースクウェア(以下マンスリー)は、115回もの公演が行われ、都心に行かなくても、町で音楽や落語、ダンスといった様々な分野のステージを楽しめる催しです。小さな公民館のホールで行われているため出演者と観客の距離が近く、観客は出演者の表情や息づかいを感じる事ができ、相互の演出が行われて会場が一体感に包まれます。

竹間沢公民館を地域に根付いたものにしたという思いと、公民館に携わる団体の発表の場を提供するため、16年前からの事業が始まりました。当時はコピュミよしがまだなかったため、各公民館が芸術鑑賞の場となっていました。

一度訪れると何度も来なくなる

大きな劇場やホールに足を運ばなくても地元で身近に、誰もが芸術文化に気軽に接することが出来るのも特徴です。もう一つの特徴として、リピーターが

竹間沢マンスリースクウェアの由来とは？

住民の皆さんが竹間沢公民館に、毎月集まることが出来る「みんなの広場」となれば、という思いから名づけられました。始まった当初は毎月催しが行われ、無名のアーティストなどを招致し、この舞台がきっかけとなり、テレビなどに出演するほど成長したアーティストもいます。



vol.115 東京銘曲堂 TMD

様々な作業に追われる日々でしたが、今まで続けてこられたのは、ボランティアスタッフの協力や地域の皆さんの支えがあるから。出演者、お客さん、スタッフとの出会いがマンスリーの宝物となり、次の公演に向けた活力となっています。
 ぜひ一度、会場に足を運んでみてください。きっと、素敵な出会いが、待ちうけていることでしょう。

マンスリーを支えるボランティアスタッフ
お客さんの笑顔が一番の原動力

現在、スタッフは10人。最初は観客として参加し、そこから縁がありスタッフになった人が多いそうです。嶋垣ナオミさん(スタッフ歴16年)もその一人。「自分が企画した11回目や90回目の公演は、苦労して作り上げたので、特に印象深く思い出に残っています。続けてこられた源は、公演が終わった後に会場から出てこられたお客様の弾ける笑顔と『楽しかった!』と声をかけてくださる一言です。これからも、手作り感のある温かい雰囲気を大切にしていきたいと思っています。」



↑すべての公演一つひとつの思い出が詰まっているようで、昨日のことのように細かく説明してくれました。



→vol.35「第4回竹間沢講演会」の様子。出演は故田辺一鶴ほか。公演は午後10時30分をこえ、スタッフが口を揃えて、記憶に残っている公演と言う。

第1回目のマンスリー



1997年11月、「歌姫からの贈り物」の公演で産声をあげたマンスリー。尚美大学生を迎えたミュージカルナンバーのコンサートを開催しました。前日までに250枚のチケットがお客さんに配られました。ところが、当日の天候はどしゃぶりの雨。来場者は23人で、第1回目の舞台は終了となりました。当時の担当者は「2、3回でマンスリーが終わるのではないか」と思っていたそうです。